

工事を止めて日本を再起

岡本栄一

高速道路を通じ農家が日本の在り方を変えられると自負しています。

地方からの百姓革命です

東九州道椎田南～宇佐線は現在ミカン園を2回にわたり強制執行をして、4月24日完成を目指している。しかし、この工事を止めて日本の公共事業の在り方を変えるべきです。

日本人はおとなしい性格で国の決めたことには従順に従う性格です。

お役人は間違っていないし、批判しないことが無難という安逸な風潮になっています。

「景気対策なら仕方がない」「交通量が少なくて採算に合わなくても造って良い」という無責任社会です。

国も地方も政治家が全て賛成に回り反対運動をタブー視し抑え込んでいます。

このような議論のない、切磋琢磨の無い国民性では社会は発展しません。

警鐘を鳴らして目覚めさせることです。

日本が今からも世界でリードするために国民性を作り変えて強靱にしなければなりません。

そのために、従来のエリートや専門家だけの指導では国民は強靱化しません。

公共事業に無関心と思えた農家の発起で闘い始めた。

それに呼応して、公共事業を考えたことのない民衆のこの運動こそ役立つと思います。

公共事業の革命ために補償金は断固拒否です。

そのためには、ミカンの収益だけで難局を乗り越えなければならなりません。

自縄自縛ですが死力を見せつけなければ誰もついてきません。

ミカン園がぶち抜かれて選果場や貯蔵庫は取り壊されました。

しかし、補償額の6分の1の300万円でこれらを再建しました。

また、去年の強制収用の騒動でミカン園の手入れが出来なくて畑は荒れています。

この3月は、枯れた樹の植え替えなど労力面で見通しは立ちません。ここで倍の労力が注がなければ廃園になるので必死でやる以外ないのです。

裁判も難題です。

本人訴訟に切り替えたので弁護士の支援もありません。

事業認定取消訴訟は裁判の本丸として今後も続きます。

3月27日までの控訴理由書提出が迫っているが畑仕事で準備もままならない状況です。

初審は弁護士がいなかったため反論が出来ず棄却となりました。

判決文を詳しく読むと、十分戦えることが分かります。

例えば、交通予測について国は分析手法を公表していません。公表すれば手法のでたらめがバレるからです。国は白旗を上げているも同然なのに裁判官は分析手法の公表を不問にしています。代替案山すルートについて、設計図が精緻でないことを理由にコストはもっとかかると陥れています。山すルートの再検証にはコンサルタント会社に金を積まなければ出来ないのか。当局ルートへのアクセス道路は県道だから建設コストに加えられないと詭弁です。この工事費約100億円を加えれば当局ルート建設費は合計1140億円になる。山すルート487億円の2.34倍です。

山すルートの勾配を批判していますが、例えば、高架橋や切盛土工に30億円程度追加投入すれば勾配も緩く完璧設計になります。それでも半額以下で収まる優れた代替案です。

通常の住民訴訟では、補償金を受け取って、それを裁判費用として使うものです。

しかし、補償金を受け取れば建前だけの事情判決に陥りやすい。

魂が入ってないので国に圧倒され負けてしまう。

土地収用などの法律は一方的に国に勝たせるように出来ています。

対抗するには専門家が必要です。

私たちは素人だから補償金を受け取れないし、専門家も雇えないので一層厳しい闘いとなります。

今まで住民運動はイデオロギーや政党をバックにした都市の運動でした。

私たちは違います。田舎にあって基地問題や憲法など政治闘争に関係しない人間です。

政権を全く脅かさない存在です。

高速道からの素朴な国を憂う気持ちだけです。

運動で追いまくられながら救いもあります。

200名のトラストや3名の地権者は今でも補償費を受け取ってないことです。

そして裁決取消訴訟を呼び掛けたら瞬く間に100名が原告に名乗り出てくれたのです。

(手続きの関係で5名に絞りました)

マスコミ報道も好意的で全国に知らせてくれました。

7月の代執行のテレビ中継で、小屋から無理やり引き出される様子を全国民は「かわいそう」と同情と共に激励を寄せてくれました。

昨年暮れの「テレビタックル」でも紹介されました。

「農耕民族の日本人はお役人に従順すぎる」「ミカン農家が従順さを捨てて先頭に立つ」「費用に見合った高速道路を求めろ」「代替案と比較で工事を止める」と言いました。

従来のお堅い時事討論やバラエティー番組からは全く異色の存在でした。

町を歩いていても「ミカン園の岡本さんですね応援します」と口ぐちに言ってくれます。農家からの発信には安心感があるのでしょう。国民の大部分が応援してくれています。特に大衆層からの支持が大きいことが特徴です。自分にはチャンスはなかったがミカン農家は自分の代弁者になってくれたと。

12月31日の朝日新聞社説

開通による10分の短縮効果と補償金を貰う事を深く考えるべきと。あるいは高速道路について重層的に考えるように求めています。

強権ばかりでは国民はついてこないし嫌われる。

支持率の高い安倍政権は思い切った政策を取れるのでは。

かつて、人気を誇った小泉首相は、「自民党をぶっ壊す」と言って道路公団解体を進めたが、これと同じように「東九州道を止める。」という逆説的潜在意識の誘導も一法です。ショック療法も良いのでは。

安倍首相は高市総務相の答弁を擁護して、電波法で政権に批判的な番組のけん制をしています。これは強権的です。

政府は辺野古で虚を突いた代執行を行いました。そして、今後も憲法改正の強権の突きつけの連続があるとした場合、時には鷹揚さを示す余裕が効果的と思われる。

言い分は、国の安全を決める重要な決定であり、実行しなければ政権を脅かされたと。

しかし農家が主役の東九州道では政党もイデオロギーも関係しません。

週刊誌の『週刊金曜日』2月12日号で甘利経済相に関し横田一氏が東九州道を取り上げました。

「半額代替案提唱」「補償金受け取り断固拒否」とあり、政治家や政権批判は全くしていません。

このように農家が主役ではマスコミ報道は自由にさせるべきです。

「工事を止めて採算の合う高速道路か検証しろ」「代替案との比較をせよ」という主張を全国に発信させることを許すことです。

現在、国民のほとんどは不自由なく生活できる状況だと思います。機会があれば、社会に貢献したいという願望もあるでしょう。

「一度止めてルート案を検証してみよう」。という大岡裁きを国民に一度させてみるべきです。裁きが出来る素地は十分にあると思います。

ドラマではなく現実に、同格のミカン農家と共に。

高速道路を止めたという醍醐味を全国民に味わわせることです。

現在、景気浮揚策はどれも空振りの感があります。

硬直した国家組織の手詰まりとも思えます。

ここで一度、お役人だけの国家組織をご和算にしてしまい、素人に解放することです。

東九州道の残された7. 2キロ区間を素人に任せるのです。

国民が百花繚乱、高速道路や景気対策だけではなく国の在り方まで追求するでしょう。

あと2か月弱で工事は完成です。

国民に勇気を与える重要な局面になりました。

「変革というのは、ひとつ起こると、必ずや次の変革を呼ぶようにできているものである」。

『君主論』

日本は世界最大の借金国だが通貨は最も安定していて、潜在的に今でも日本の力は世界に期待されている。

生活はつつましくとも国民一人一人が公を心配する社会は強靱です。

日本が強靱になれば世界の発展に寄与出来ます。

不思議な力を発揮する日本が世界の次のステージにも主役として立てます。